

こんにちは町会です

 号
33

私たちが暮らすまち、中央区。現在、区内には170を超える町会・自治会があり、よりよいまちをつくるために活動しています。ふとまちを見渡すと、町会・自治会の活動やつながりをあちらこちらに発見することができます。

古き良き伝統を守りながら、新たに区内に住む方々を迎え入れ、共に地域のこれからの歴史をつくっていく。今回は、そんな町会・自治会活動を担う方々の、まちへの思いをお伝えします。また、ホームページやSNS、町会広報紙など、多くの人に町会・自治会を知ってもらうための工夫も見どころです。

興味を持ったあなたも、ぜひ、町会・自治会でまちづくりに関わってみませんか。



今回ご紹介する
町会・自治会

京橋三丁目町会
小伝馬町一の部町会
佃リバーシティ自治会

■町会・自治会についてのお問合せは…

- 京橋地域 区民部地域振興課 Tel: 03-3546-5337
- 日本橋地域 日本橋特別出張所 Tel: 03-3666-4251
- 月島地域 月島特別出張所 Tel: 03-3531-1151

中央区 町会・自治会ネット

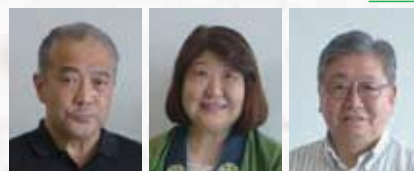
検索

町会・自治会情報は「中央区町会・自治会ネット」▶



世代を超えた縦の絆と、町会の

横のつながり



田中会長

波多さん

小松副会長

「京橋の名は、京都に向かって最初に渡る橋ということで付けられた」と誇らし気に話す京橋三丁目町会の皆さん

▼3月に行われる桜を愛でる会。桜と一緒に美味しいお茶菓子をいただくことができます。



れ、活気あふれる競りが開かれていました。河岸には大量の大根がうず高く積み上げられていたことから「京橋大根河岸」と呼ばれています」と田中会長。

京橋大根河岸「おもてなしの庭」で行事を開催

◀10月の収穫祭 いつも多くの方が楽しみにしている催しです。

町会の皆さんとお会いしたのは『京橋大根河岸おもてなしの庭』。ここには、京橋三丁目町会のアイデアが息づいています。2015年に、(公財)都市緑化機構と第一生命保険株が、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に訪れる人たちを歓迎する空間として、緑の環境デザインコンテストを開催。多数寄せられた企画の中から、見事、京橋大根河岸「おもてなしの庭」の案が大賞に選ばれました。季節の植栽が美しく花を咲かせる「おもてなしの庭」には、江戸歌舞伎発祥之地、太平洋戦争での戦没者の慰霊、そして「京橋大根河岸青物市場跡」の石碑が建てられています。

「江戸時代、京橋には八王子辺りから届く様々な野菜が荷下ろし

京橋三丁目町会 会長

田中 智行さん

副会長

小松 忠和さん

広報担当

波多 芳江さん

江戸っ子の心意気で 伝統文化を守り継ぐ

「幕府の予算で架けた橋に付けられた擬宝珠が有るのは日本橋、京橋、新橋の三つだけ。これらの橋の内側に生まれ住む者が、御城下町(おしろしたまち)と呼ばれる江戸っ子の中の江戸っ子です」と小松副会長。「京橋は職人の町で、会員には代々続く老舗が多い。

中央通りの反対側には、京橋竹河岸の名も。「生け垣や門松などを作る竹が集められていましたが、この笹を使って七夕飾りを最初に始めたのが、京橋の職人たちです。それを河岸で働いていた人たちが里帰りした際に持ち帰り、全国に広まってきました。だから七夕祭りの発祥の地は、京橋なのです」と波多さん。「3月は桜を愛でる会、8月はジャズの演奏会も開くビアガーデン、10月は大根等の野菜を配る収穫祭、年末は餅つき大会と、この場所があるおかげでいろいろな行事を開催できています」。



できません」と田中会長は笑います。

そんな歴史と伝統の町が、より活気づくのが山王祭です。「山王祭は、将軍が上覧した祭禮です。でも段々と会員は歳を重ねる人も減ってきましたし、コロナ禍で飲食への制約も出てきました。それでも格式ある大切な祭りですから、京橋三丁目町会も属している、京橋一の部連合町会、内の11町会同士のつながりをいかして、江戸っ子の心意気で守り続けています」。

しかし、それだけでは10年、20年後の未来は見えてきません。「息子や娘たちの意見も取り入れ、ホームページを作りツイッターも始めました。京橋の魅力をいろいろな方の視点からアピールしています。また地元の大企業とも共存共栄し続ける方法を提案し合っているのです」。

組織の垣根を越え、新しいツールもどんどん取り入れながら、次世代へと伝統文化を継承し続ける京橋三丁目町会。「とにかく京橋が好きだから!」。そう語るみなさんの顔には、生粋の江戸っ子としての誇りと喜びが満ちていました。



「京橋と山王祭のためならと、一声かければみんなすぐ集まってくれる」。そんな結束力が、京橋三丁目町会も属する京橋一の部連合町会の心意気。江戸町火消しの「せ組」の鷹頭も駆けつけてくれました。

私のところは百数十年ぐらゐの歴史ですが、副会長の店は約270年。百年程度では、まだ威張ることは

『ランPAT 2.0』地域を走って、見守りましょう!

町会・自治会とPTAが地域の情報を共有し、ランニングをしながらパトロールを行う「地域コミュニティPTA(ピタ)ツと!事業『ランPAT2.0』」を実施しています。地域のつながりづくりや安全・安心の向上を目的として、まちを走って見守ります。詳しくはホームページ(※)をご覧ください。おすすめランニングコースも掲載しています。

(※) <https://centerofthearts.org/runpat/>

こちらを読み取ってください。



※本事業は中央区とNPO法人センター・オブ・ジ・アーツとの協働事業として実施しています。



京橋三丁目町会HP▶
「京橋3丁目ネット」



京橋の魅力を全国に発信するホームページの制作には、京橋にゆかりのある若いデザイナーが一役買ってくれています。

子どもたちにも「故郷」として
愛されるまちへ

森会長

森会長がこの地で代々受け継ぐ森武道具店。お店の前からも見える大型マンションや地域住民の方々と力を合わせ、より住み良いまちづくりを目指しています。

「いつまでも心に響く
「時の鐘」の音を

江戸時代に旅人や物資の運送を取り仕切る「伝馬役」が置かれていたことから名前が付いた小伝馬町。歴史ドラマでも取り上げられることの多い小伝馬町牢屋敷もこの地にありましたが、現在は十思公園、十思スクエアへと姿を変えています。この十思公園に設置されているのが、小伝馬町一の部町会の象徴でもある「時の鐘」です。

「私が子どもの頃は、陽が傾き鐘の音が響くと、そろそろ帰らないとゲンコツが降ってくるぞと悪ガキたちも慌て



かつて本石町で江戸市中に時を告げていた時の鐘は、昭和5年に十思公園に鉄筋コンクリートの鐘楼堂を建て引っ越ししてきました。以来、小伝馬町一の部町会の行事の中心となり、愛され続けています。

小伝馬町一の部町会 会長 森 伸雄さん

「家路を急いだものです」と、笑うのは小伝馬町一の部町会の森会長。いまでも年越しの除夜の鐘、3月11日の東日本大震災の追悼、8月15日の終戦記念日に、町内のみなさんと一緒に鐘をつく行事は、しっかりと定着しています。

「これまでは、だれもが楽しく参加できるように、例えば除夜の鐘で、子どもたちへのお菓子と、年越し蕎麦を300食ほど用意していました。いまはコロナウイルス感染防止のため、3密を避けるなどの配慮が必要で、これまで通りにはいかず歯がゆいところがあります。」それでも毎年楽しみにされている町内の皆さんに安心して参加してもらえよう、人数制限をしたり、年越し蕎麦を持ち帰りできるものに代えたりして開催しています。また、車椅子の方でも来場できる工夫などを行っています。

大切なのは新しい仲間と
子どもたちの未来

「私たちは小さな組織ですが、その分まとまりがあり、雰囲気も和気あいあいとしていて、近くに建つ大型マンションの住民でも、町会の企画運営に積極的に参加してくれる人がいます。」

そんな若い世代の意見も取り入れ、都の助成金を活用して昨年発行したのが会報誌『時の鐘だより』です。小伝馬町の歴史と時の鐘、

町会活動や防災情報もわかりやすく紹介しました。さらに、小伝馬町の古き良き昭和のマップと、町会会員のお店を紹介する現在のマップを並べて掲載しています。

「発行にあたり、町内の史跡やいろいろなお店が身近にあり、楽しく散策してもらえる冊子を作りたい」と周辺の店舗にお声がけしました。すると、ぜひうちも載せてほしいと大手チェーン店なども新たに会員になってもらったのです。評判も良く、次はパソコンやスマートフォンからも簡単に見られるようにしよう、と、みんなで盛り上がりつつあります。他の地域と同様に、小伝馬町にも独居老人のケアや防災時の対応など、多くの課題があります。

「この地に長年住んできた人も、新しく移り住んで来た人も、より良いまちにしたい」とする気持ちは同じです。大切なのはお互いの考えを尊重し、融和していくこと。そんなお話を伺っていると、近くの公園で遊ぶ子どもたちの元気な声が聞こえてきました。「あの子どもたちが大人になった時、時の鐘の音が響くまち、それが故郷・小伝馬町なんだ」と家族に自慢できるような思い出をたくさん作ってあげたいのです」と森会長は楽しそうに話されていました。



2000部印刷した「時の鐘だより」。まちの活性化に一役買いたいと一軒一軒のPRポイントを掲載し、紹介しています。

法人会員になりませんか

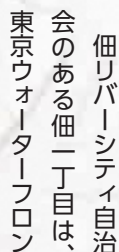
町会・自治会は、地域住民以外に、事業を営む方も法人会員として加入いただけます。事業主の皆さんも、この機会にぜひ町会・自治会への加入をご検討ください。会員同士の連携・協力で、地域一体となって活動することで、一層安全・安心で住みやすく、活気のあるまちをつくりましょう。

なお、町会・自治会に加入している事業者が、区の実施する中小企業向け商工業融資を利用する際、借受人負担利率の優遇が適用される場合があります。詳しくは「令和3年度中央区商工業融資制度一覧」(*)をご覧ください。

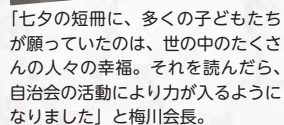
(*) <https://www.city.chuo.lg.jp/sigoto/kigyohenoyusi/kunoyusiseido/saishinyuushiseido.html>

こちらを
読み取って
ください。





業は3年ほど前から
本会と近隣のコーシャ
タワー佃自治会、佃2
丁目5号棟自治会の三
つの自治会が手を取り
合い、毎週土曜に20人
ほどが集まり清掃して
います。



梅川夫妻は、力を合わせ佃りバーシティ21に住む若い方からお年寄りまでが楽しめる様々な行事を執り行っています。奥様は8年前から自治会理事に参加し、地道に活動を続ける姿を見て来た梅川会長。1年程前、前会長が退任となり、人手が足りないと言いた時、少しでも副会長や他の自治会メンバーの助けができればと会長職を引き受

参加して初めて知った 自治会の本当の役割

いらつしやるので、和英表記の会報紙も発行し、行事の案内から災害対策まで、幅広い情報をお伝えできています」と梅川貢一郎会長は説明してくれました。



自治会の活動や地域の情報を、会
報紙やホームページ、SNSを活用
して皆さんにお伝えしています。

佃リバーシティ自治会

会長

梅川 うめがわ

貢一郎さん

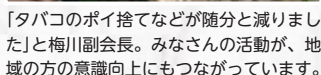
副会長

梅川 うめがわ

ひろみさん

い、ハロウィン、もちつき大会、クリスマスの
装飾、年末夜警などの活動を進めていく中で、
自治会の持つ本当の役割が次第にわかってき
たと話します。「自治会は、地域の方たちの声
を汲み取り行政に伝え、行政がどう対応しよ
うとしているのかを皆さんに説明していく。
言わば対岸の声と声を伝える橋渡し役です。
それには一人でも多くの住人が興味を抱き、
参加できる行事を開催し、交流を深めていく
ことがとても大切なのだと気付きました」。

周辺の企業からも自治会の活動に理解が得
られ、賛助会員の数も以前よりさらに増えて
きました。梅川ひろみ副会長は、「今後は、
賛助会員の方たちの力も借りて、地域の方が
積極的に参加したくなる楽しい企画をもっと
実現していきたいと考えています。」と話し
ます。長年このまちに住む人々と、再開発後
の大型マンションの住人も、互いを必要とし
あい、住吉大社のお祭りなども一緒に盛り上
げる仲間です。「多様な考え、価値観を持つ
人たちの間を取り持つことこそ、私たちの役
目。そして、たくさんの人の声や支えがあっ
てこそその自治会であると強く感じています」
と、お二人は意見も息も、ぴったりと一致し
ています。



4